

News Release



2006年8月3日

BASF 農業製品部門、 日本における BASF イノベーションの優位性を紹介

- BASF、日本の農業市場を戦略的に重視
- 水稲用殺菌剤「嵐[®]」ならび果樹用殺菌剤「ナリア[®]」、
2007 農薬年度に発売開始予定
- 新規化学物質系統と新作用機作の発見にフォーカスした研究開発戦略

世界の農業市場が厳しい状況にある中、BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は利益ある成長を続けています。コアとなる市場で確立された強固なプレゼンス、上市を目前に控えた研究開発中の強力な製品パイプライン、特許製品の占める割合の高さ、また高い顧客満足度が、いずれも BASF の強みとなっています。

BASF の農業製品部門プレジデント、ミハエル・ハインツは本日(2006年8月3日)、東京で開催された記者説明会の席で次のように述べました。「BASF はお客様の現在および今後のご期待に応える力と熱意を兼ね備えており、農業の未来を形作る、その一役を担っています」。

BASF は IUPAC 農薬化学国際会議(2006年8月6~11日、神戸)を前に、その未来志向の戦略と、有望な研究開発パイプラインの一端について明らかにしました。「現在、そして今後の課題に対応していくには、イノベーションが重要な意味を持ちます。まさにこのイノベーションが、BASF の優位性であると考えています」とハインツは付け加えました。

BASF 農業製品部門の 2005 年における研究開発費は 3 億ユーロを上回り、これは同部門の売上高の約 9%に相当します。BASF は今後、これを 10%にまで引き上げる予定です。BASF では現在、6 種類の新たな有効成分の開発と、新しい除草剤耐性プロジェクト 1 件を進めており、これらにより最大で 7 億ユーロの売上が見込まれています。また、最大 12 億ユーロの売上が見込まれる 8 種類の農薬の有効成分が、市場に投入されたばかりとなっています。

BASF アグロ株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-0032
東京都港区六本木 1-4-30
六本木 25 森ビル 23 階
TEL: 03-3586-9911
FAX: 03-3586-9710
URL: www.basf-agro.co.jp

BASF 農業製品部門は、複数の新規有効成分を日本市場に投入する計画です。2007 農業年度には、水稲用殺菌剤「嵐[®]」と果樹用殺菌剤「ナリア[®]」の発売開始を予定しています。BASF アグロ株式会社の代表取締役社長、ハンス・ヨアヒム・ローエは次のように述べています。「これらの新製品は、日本市場における BASF のポートフォリオをさらに強化し、ビジネスの拡大に大いに貢献してくれるものと期待しています。また、2005 年と 2006 年上半年に上市された新製品に続いて、生産者の皆様に革新的ソリューションを提供し、日本の持続的な農業の発展に貢献できるものと自負しています」。

さらにローエは、日本企業との今後のパートナーシップの可能性について、次のように述べています。「研究を基盤とする企業との相互利益をもたらすパートナーシップを、今後も模索していきたいと考えています。規模のメリット、海外市場へのアクセス、事業運営面におけるベストプラクティスの共有など、パートナーシップを通じて得られるものは多々ありますが、中でも研究、新製品開発、そして登録においては、双方にとって非常に有益であると考えています」。

BASF 農業製品部門グローバル研究開発担当シニアバイスプレジデントのペーター・エックスは、研究開発で成功を収めるために特に重要なファクターは、戦略、人材、プロセス、プロジェクトであるとし、次のように語りました。「お客様の将来的なニーズを把握するためには、販売やマーケティング、研究、開発の担当者同士が十分な討議を重ねる必要があります。部門間の相乗効果を高めるためには、関係者全員が同じ土俵に上がり、分かり合えるようにならなければなりません。BASF では、このプロセスを非常に重視しています。BASF の研究開発目標は明確です。そして、社内の全員が目標を共有し、理解しています」。

BASF は、研究の重点を新しい作用機作を持つ化学物質系統の発見に置いています。エックスは、また、次のように述べています。「重点的な研究が、着実に成果をあげています。過去 5 年間、新しいユニークな作用機作を持つ化学物質系統の数が、5 倍に増えました。これら新規系統は生物学的、経済的、生態学的な有効性において新たなベンチマークとなれる可能性を秘めています。それらのユニークな生物学的作用が、耐性問題を解決してくれるでしょう。そして、これらの新規系統は市場での成功の可能性も高く、その結果、利益ある成長を確保してくれるものと期待されています」。

エックスとそのチームは、農薬の研究開発をテーマとする世界最大の国際的学術会議、IUPAC 農薬化学会議において、重要な役割を担います。

###

■BASF アグロ株式会社について

本社： 東京都港区六本木 1-4-30 六本木 25 森ビル 23 階
設立： 1950 年 10 月 13 日
社長： ハンス・ヨアヒム・ローエ
資本金： 2,140 万円
持株比率： BASF ジャパン株式会社(100%)

BASF アグロ株式会社は、BASF の農業製品部門に属し、農耕地・環境衛生にわたる幅広い分野において、日本の地域特性や農業手法に合わせた農薬(除草剤、殺菌剤、殺虫剤)を提供しています。また研究拠点を田原、生産拠点を郡山に有し、日本国内において研究・開発・製造・販売・マーケティングまでの一貫した体制を確立しています。同社のインターネットホームページアドレスはwww.basf-agro.co.jpです。

■BASF の農業製品部門について

BASF の農業製品部門は、定評ある革新的な殺菌剤、殺虫剤、除草剤を提供し、農業における強力なパートナーとして業界をリードしています。2005 年度の売上高は 32 億 9,800 万ユーロでした。同部門の製品・サービスは、農業の生産性と農作物の品質向上に役立てられているほか、環境衛生、害虫・シロアリ駆除、およびゴルフ場や家庭園芸、公園等の植生管理、林業など、非農耕地向けにも利用されています。BASF の農業製品部門は世界をリードするイノベーターとして、農業生産を最適化し栄養価を高めることにより、世界的な人口増加の中、人々の生活の質を向上させることをビジョンとしています。詳細についてはwww.agro.basf.comをご覧ください。

■ BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASF の製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーとして信頼されている BASF は、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASF では、新技術の開発により新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功、環境保護、および社会的責任を果たすことでより良い未来に貢献しています。9 万 4,000 人の従業員を擁する BASF は、2005 年度には 427 億ユーロを超える売上高を計上しました。BASF の株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、チューリッヒ(AN)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスはwww.basf.comです。BASF ジャパン(株)のインターネットホームページのアドレスはwww.basf-japan.co.jpです。

■本件に関するお問合せ

BASF アグロ株式会社

コーポレート・コミュニケーションズ 川端 TEL: 03-3586-9911

ヒル アンド ノウルトン ジャパン株式会社(広報代理)

担当 野田・笠井 TEL: 03-5768-8400